



公益社団法人全国解体工事業団体連合会

令和7年度正会員団体代表者・事務局長会議議事録

日時	令和8年1月30日(金) 15:30~17:25	場所	明治記念館(富士の間2) (港区元赤坂2-2-23)
[出席正会員] 正会員総数41団体/出席33団体、欠席8団体			
(一社)北海道解体工事業協会	堀井太一	(一社)静岡県解体工事業協会	木村正善
(一社)青森県解体工事業協会	小野智史	(一社)愛知県解体工事業協会	中村茂仁
(一社)岩手県解体工事業協会	大森琢哉	(一社)三重県解体工事業協会	山本和宏
宮城県解体工事業協同組合	佐藤正之	(一社)滋賀県解体工事業協会	[欠席]
(一社)秋田県解体工事業協会	小野雅敏	(一社)京都府建物解体協会	木村 央
(一社)山形県解体工事業協会	井上 尚	(一社)大阪府解体工事業協会	名和祥行
(一社)福島県解体工事業協会	齋藤達夫	(一社)兵庫県解体工事業協会	上原 満
(一社)茨城県解体工事業協会	高野竜也	(一社)奈良県解体工事業協会	竹島常裕
(一社)栃木県解体工事業協会	奥田美弘	鳥取県解体工事業協同組合	森本省治
群馬県解体工事業協会	[欠席]	(一社)岡山県解体工事業協会	坂田幹夫
(一社)埼玉県解体工事業協会	河野富美男	協同組合徳島県解体工事業協会	[欠席]
千葉県解体工事業協同組合	秋野良夫	高知県解体業協会	[欠席]
(一社)東京建物解体協会	藤井 誠	(一社)福岡県解体工事業協会	妹尾 晃
(一社)神奈川県建物解体業協会	柳井 修	佐賀県解体・リサイクル協議会	[欠席]
山梨県重機・建設解体工事業協同組合	中村吉邦	(一社)長崎県解体工事業協会	池田正喜
協同組合長野県解体工事業協会	寺島琢也	(一社)熊本県解体工事業協会	喜讀宣友
(一社)新潟県解体工事業協会	[欠席]	(一社)大分県解体工事業協会	[欠席]
(一社)富山県構造物解体協会	[欠席]	宮崎県解体工事業協同組合	吉野博朝
(一社)石川県構造物解体協会	今村秀憲	(一社)鹿児島県解体工事業協会	新留 司
(一社)福井県解体工事業協会	矢野智孝	沖縄県解体工事業協会	赤嶺太介
(一社)岐阜県解体工事業協会	木村順一		

[開会宣言]

定刻の午後3時30分に至り、庄司事務局長が出席者の確認を行い、平典明副会長が令和7年度正会員団体代表者・事務局長会議の開会を宣言した。その後、井上尚会長が挨拶をした。

[第1部報告]

井上会長の指示により、周藤事業部長が令和8年度事業計画(案)について説明を行った。
[周藤事業部長]: 公益事業1の(1)解体工事に関する資料収集及び調査研究は、前年同様で特に変更点は無い。

(2)解体工事施工技術講習は、昨年(2025)の11会場に追加して熊本県か鹿児島県での開催を検討している。講師・教材については例年通りである。受講者及び受講料については、現在理事会で25歳以下の受講者に対する受講料の半額助成を検討しており、通常(26歳以上)の受講者950名に25歳以下の受講者100名で合計1,050名の計画であり、予算としては昨年同様となる。

(3)冷媒フロン回収のための行程管理票の啓発普及として、例年通り行程管理票の委託販売を行う。

(4)解体工事に関する調査研究等を行う者に対する費用の助成は、昨年と同様に行う予定である。

公益事業2の(1)解体工事施工技士試験は、12月6日(日)開催で、会場は技術講習と同じ都道府県と神奈川県で、同様に熊本県か鹿児島県のどちらかを追加する。受験者は2,300名の計画である。受験料、申込期間、試験委員会等は例年同様である。

(2)解体工事施工技士資格者の登録及び登録更新講習について、更新講習の実施地は5年前の試験地と同じ都道府県での開催が原則だが、中国・四国ブロックで5年前に開催した広島県は、正会員団体が無いので岡山県にしたいという要望が出され、広島県を岡山県に変更した12会場を予定している。講師・教材等は例年同様である。受講者は1,200名の計画である。解体工事施工技士資格の啓発普及も例年通りに行っていく。

(3)労働安全衛生法に基づく講習・教育については例年通りである。

(4)登録解体工事講習は、宮城県・東京都・愛知県・大阪府・福岡県の5会場に、要請のあった宮崎県を追加し6会場で8回開催する。受講者は1,400名の計画である。その他、講師、教材、講師研修会等は例年通りである。

(5)登録解体基幹技能者講習は、令和7年度は日程を3回にわけて行ったが、令和8年度は2回開催とする。会場は、中心となる宮城・東京・愛知・大阪・岡山、福岡に、要請のあった青森・静岡・兵庫を追加した9会場を予定している。受講者は400名の計画である。講習料、講師、教材、講師研修会等は昨年同様である。

(6)解体技能者能力評価は、令和7年12月現在で1,725名であり、レベル4になり得る登録解体基幹技能者の有資格者1,364名に対して申請者数は500名と大きく開きがあるので、啓発促進に協力いただきたい。レベル判定の事務処理は(一社)日本機械土工協会に委託している。申請者数は実情に合わせて800名を予定している。

法人管理・運営の(1)法人行事は、6月5日に山形県で総会を開催する。理事会、代表者・事務局長会議、新年賀詞交歓会を例年通り開催の予定である。後ほど矢野実行委員長からも報告があるが、6月17日から20日の4日間、幕張メッセで開催される第8回国際建設・測量展に全解工連として昨年に引き続き出展する。新しい行事としては、全解工連青年部会を昨年発足させたが、全国ブロック青年部会を1回以上開催する予定である。

(2)刊行物等は、事務局通信、会報誌「メビウス」等を例年通り発行していく。

(3)優秀施工者の会長顕彰、会長表彰は例年通りである。

(4)その他は未組織県の組織化、正会員団体の組織率向上等を昨年同様に行っていく。

その後出席者に質問を促がしたところ、特に質問等はなかった。

令和8年度事業計画(案)の報告終了後、第8回国際建設・測量展の出展について矢野智孝実行委員長が進捗状況等を報告した。続いて6月5日(金)開催の全解工連第15回通常総会(山形大会)の開催案内等について遠藤玄博実行委員長が報告した。次に11月21、22日(土・日)に福岡県で開催が決まった第3回解体De-1グランプリ2026のアピールを妹尾晃実行委員長が行った。また酒井健吉青年部会長が青年部会の活動状況について報告し今後の抱負を述べた。最後に(一社)福島県解体工事業協会の齋藤達夫会長が本年福島県でFDCグランプリを開催する予定であることも報告した。

[第2部報告]

第2部では賛助会員のコベルコ建機日本(株)、コマツカスタマーサポート(株)、住友建機販売(株)、日本キャタピラー合同会社、日立建機日本(株)の5社によるプレゼンテーションを行った。

[閉会]

以上をもって会議の全てが終了し、17:25 に令和 7 年度正会員団体代表者・事務局長会議を閉会した。

令和 8 年 1 月 30 日

公益社団法人全国解体工事業団体連合会
令和 7 年度正会員団体代表者・事務局長会議

議事録署名人

  